



平成31年度

我が校の強み弱み分析・評価シート

令和元年10月31日
大津市立栗津中学校

栗津中学校3年生の全国学力・学習状況調査の結果では、3教科とも、全国平均を上回りました。

このことは、最後まで問題を解こう、書こうと努力した人が多かったことがよい結果につながったと考えます。課題としては、国語では「文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書くこと」、数学では「資料を読み取り、判断の理由を説明すること」、英語では「自分の考えを書くこと」と「基本的な表現で応答すること」です。これからの教科の学習では、「自分を表現すること」に力を入れてください。

また、家庭学習の時間について、1日当たり「3時間以上勉強する」人が、昨年と比べて増えています。これからも家での時間の使い方を工夫して、自分で計画的に勉強できるようにしてください。

I 本校の学力・学習状況 [H31「全国学力・学習状況調査」の結果より] ○印=強み ●印=弱み

【学力調査】

《国語》○「話すこと・聞くこと」と「伝えたい事柄について根拠を明確にして書くこと」の正答率が高い。

●文章を読んで「感じたことや考えたことを具体的に書くこと」の無解答率が高い。

《数学》○主に図形や確率の知識や活用に関する問題の正答率が高い。

●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

《英語》○「まとまりのある英語を聞き概要を理解すること」「内容を正確に読み取ること」の正答率が高い。

○与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる。

●与えられた内容に、自分の考えを書くことや基本的な表現を理解して応答することに課題がある。

【学習状況調査】

《国語》●文章や資料を読むとき、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいく生徒の割合が低い。

《数学》○数学の勉強は大切だ、数学の授業の内容がよく分かる、と考える生徒の割合が高い。

《英語》○「英語の勉強が好き」「将来英語を積極的に使う生活がしたい」と回答する生徒の割合が高い。

●スピーチやプレゼンテーションなどまとまった内容を英語で発表することが十分にできていない

II 教科指導（国語）（数学）（英語）における改善策

（国語） ・生徒の身近な話題提供、漢字の面白さを伝える等、語彙力を高め、漢字の定着を図る。

・文章を書く作業を授業に多く取り入れ、書くことへの抵抗を和らげる。

（数学） ・授業の中で「できた」・「わかった」と思える問題・場面を設定し、学習意欲を高める。

・授業の中で、自分の言葉を使って説明したり表現したりする場面を意図的に設定する。

（英語） ・語彙力を高め、基本的な表現の定着を図る。

・自分の意思などまとまりのある文を書く活動を定期的に取り入れ発表する機会を増やす。

Ⅲ 学校教育目標の達成状況 [H31「全国学力・学習状況調査」の結果より]
 学校教育目標 <やさしく かしこく たくましく> に関連した質問紙項目と達成状況

< やさしく >

○人が困っているときは、進んで助けていますか。

→肯定的な回答をした生徒が、85%を超えている。

豊かな心を持ち、「命」や
「もの」を大切にする生徒



粟津中キャラクター
「あわ松くん」

< かしこく >

○国語・数学・英語の授業で学習したことは、

将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

→3教科すべて肯定的な回答をした生徒が、全体の80%を超える。

学ぶ意欲をもち、学んだことを活用しようとする生徒

粟津中の生徒には、こんな良いところがあります！

< たくましく >

○今回の国語・数学の解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか。

→「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒が過半数に及んでいることから、粘り強く努力する姿が見られる。

○難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。

→肯定的な回答をした生徒が、75%を超えている。

「やればできる」を合い言葉に粘り強く切磋琢磨する生徒

Ⅳ 主体的・対話的で深い学びを支える学習に向けた3つの取組

(1) 学びを実感できる授業づくり

◇基礎学力の定着

- ・長期休業中の個別学習支援や定期テスト事前補充・質問教室を開講し、学習のつまずきに対するきめ細かな支援を実施し、基礎・基本の定着を図る。

- ・学習習慣を身につけさせるため各教科から計画的な課題(宿題)を与えると同時に家庭での主体的な学習を活用した授業を行う。

◇「全校一斉朝読書」の推進

- ・他者の意見に耳を傾け、自ら考えを持ち、心落ち着かせて1日の学習に臨む姿勢や学習習慣を築く。

(2) 学ぶ意欲を引き出す学習

集団づくり

◇「学び合い」学習の推進

- ・コミュニケーション能力の育成を図るため、毎授業で課題を設定し、話し合い、教え合う時間を確保し、聞く姿勢や発表・伝え合う工夫を習得させる。

- ・生徒同士が教え合い、学び合える授業づくりを推進するとともに、学習集団に互いの発言を認め合う支持的風土を醸成し、自尊感情の高まる学級づくりを推進する。

◇道徳的实践力をつける道徳教育の推進 (全教員による道徳の授業)

(3) 子どものために一丸となって

取り組む学校づくり

◇教員の授業力の向上を図る

○J Tの推進

- ・ミドルリーダーを核として若手教員の力量を高めるとともに、ベテラン教員の豊富な経験を生かし全ての教員の授業力向上を図る。

◇教師が学び合い、同僚性を高める校内研究の実施

(年間8回授業参観、授業研究会)

- ・座席配置、グループ学習、ふり返りの支援等全教科全学年で取り組む。